

譲渡用に使われた犬たちは検疫室へ

1、2ヶ月の子犬たちがワクチンを接種して検疫中。無事に検疫が明けると子犬舎に移り、譲渡会に。



ゲイジの空きスペースは、あまりに収容数が多く、感染症が防げずに亡くなった子犬がいるためです。感染症防止のため 清掃ボランティアが通っていますが 検疫中に命を落とす犬たちは少なくありません。

別の4つの部屋で検疫中の犬たち。 1匹でも助けたいと検疫室の空きスペースを有効活用



あまりに多すぎて
ここで 待機

可能な限り多くの犬を譲渡するため 収容室の犬に引き取りの声がかかると、赤いリボンが結ばれ、収容室で検疫開始します。



選ばれた犬と選ばれない犬が同居する収容室。



命を約束された赤いリボンだったのに・・・
別々の場所で捕獲された2匹の子犬。姉妹のように寄り添っていたのだが・・・
立ち耳の子犬は検疫明け間近に亡くなってしまいました。

千代丸 (ちよまる)・・・数えきれないほど呼びたかったよ

17日 飼い主が持込んだ 秋田犬
19日 人懐こい様子に検疫依頼

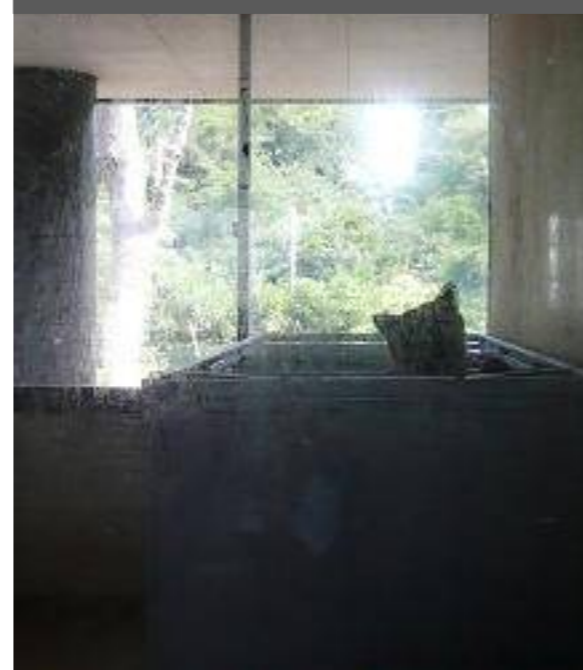


預かりさんが「千代丸」と名付ける



23日 預かりさんがセンターを訪問
元気な様子の子犬は
柵越しに精一杯甘える

「また来週ね～！」と言い
検疫室を出た預かりさんを
柵から頭を出し いつまでも見
送ってくれた千代丸



25日 感染症の可能性ありと 連絡を受ける。
27日 千代丸、力尽きる。

預かり日記 「もももの部屋」2010年8月28日から
<http://mochamama.exblog.jp/14483057/>

検疫中の犬は必要以外は触らないのが原則なので、甘えてくる千代丸を撫でてあげなかったんですが、こんなことになるんだったら、もう一度引き返して思い切り撫でてあげればよかったと後悔しています。

下痢と嘔吐で苦しい最期だったと思います。前の飼い主がワクチンさえ打ってくれていれば感染症にかかることもなかったのです。千代丸の命をいらないと思った飼い主は、幸せになる筈だった第二の犬生までも千代丸から取り上げてしまいました。

感染症疑いが出た時点で この検疫室の他の犬は別の部屋へ移動。千代丸が亡くなった後、消毒のため 部屋は一時閉鎖。

収容される犬の数が多すぎて、職員さんの努力にもかかわらず、検疫中の犬も 常に感染症の危険にさらされています。

センター内の写真は 千葉県動物愛護センターにて 撮影